



Webversion



IDF PRESS RELEASE

Belfast, 30th October 2017

IDFプレスリリース

2017年11月3日、ベルファスト発

科学技術の実用化と革新に邁進する酪農乳業

本日、国際酪農連盟の各国代表団は、研究開発活動の先駆者としてイノベーションに邁進している酪農乳業の取り組みを聞いた

フォンテラ社科学技術主席のジェレミー・ヒル氏（写真左端）が座長を務めたセッションにおいて、酪農乳業界の研究開発分野の専門家が、どのようにすれば科学技術上のブレークスルー（大躍進）によって革新が生まれ、酪農乳業界の将来ビジョンを定めることができるかの識見をプレゼンテーションした。



まずフリースランドカンピナ社で研究開発担当役員のマーガレテ・ヨルクマン Margarethe Jonkman 氏は「我が業界では革新技術を開発することが恒常的な成功の基盤になります。長い目で見て乳が必要とされる革新的な技術をもつことです。我が業界が環境フットプリントを減らすときに、いま集中している持続可能性の取り組みを続けることです。これま



で以上に、革新技術を開発することで、生産者だけでなく消費者にも付加価値を与えられるという視点が極めて大切です。」と語った。

サプート社でチーズ開発担当副社長のアレキサンダー・トーカチ Alexander Tolkach 氏は、「酪農乳業界では、科学技術を実用化するためには持続可能性の側面が不可欠な要素です。世界のバリューチェーン全般で、研究開発分野に相当の投資をすることが革新技術、食品安全および栄養の面で幅広い結果を生むはずです。」と述べた。

日本から登壇した森永乳業株式会社食品総合研究所長池田三知男氏は「増え続ける世界の人口に、たんぱく質が豊富に含まれ持続可能な乳製品を届けるという大切な役割は科学技術が担います。日本の乳製品市場では、食品の味覚よりも機能性を大事に思う消費者が増えています。この消費者の期待に応えるために、各社が商品開発に莫大な投資をしています。」と語った。



翻訳：J I D F 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。